

あいさつ

前号で4月の重点目標は「あいさつをしよう」という話を載せました。すると先日、2年生の学年通信にこのような文が載っていました。

ところで、1年生の様子を見ていて気づいたことがあります。それは、廊下や階段ですれ違くと、元気よくあいさつをしていることです。休み時間や下校時に、廊下に立って生徒たちに声をかけていますが、1年生のあいさつがひとときわ大きいのです…。授業での様子は直接見たことはありませんが、1年生の先生たちに話を伺ってみると、やはり元気よくあいさつしているそうです。

入学直後、あいさつが少ないことが気になるという話を学年集会でもしました。早速実行に移してくれている人がたくさんいますね。そしてきちんと見て評価してくださる人もいます。早速、一歩大人へ近づきました。

最近の様子



身体計測を行いました。待ち時間にうるさくなってしまい、叱られてしまいました。でも、それも学びです。

給食が始まっています。白衣が小学校とは違います。特に三角巾は一苦労です。



だいぶ前になりますが、朝日新聞に掲載された社説を紹介します。

中学生になった君たちに

新学期だ。小学校から大学まで、大勢の一年生が誕生した。そのなかで、今日は、中学校の一年生になった君と、話したい。少しおとなのなかま入りをしてみたいー君はいま、こんな気持ちじゃないだろうか。この間までの小学校と違って、たしかに中学生はおとなへの第一歩だ。男子なら半ズボンをはかなくなる。女子なら、そう、自分専用のシャンプーがほしくなるとか。だいいち、遊ぶ場所の入場料なんかも、こども料金ではなくなる。小学校では、受け持ちの先生が、国語も算数も社会も教えてくれた。中学は、科目ごとにべつの先生が教える。算数は数学に、図画工作は美術に名前が変わり、内容もむずかしい。英語の授業もはじまる。範囲がひろがるのは、教室の勉強だけではない。たとえばサークルの活動でも、小学校のように先生が一から十まで指導するとはかぎらない。生徒どうしで相談して、練習を進めることだって、ふつうだ。それだけ生徒は信頼されているのだし、その分、責任もあるわけだ。友だちがなにかいけないことをしたとする。「先生にいいつけるよ」と小学校の、とくに低学年のときには、みんなが言った。もう、いつもいつも、そんなわけにはいかないだろう。先生に解決してもらった方がいい問題もあるが、中学校の生活では、自分たちの責任で判断しなければならないことがらも、しだいに多くなってくる。それが、おとなになっていく、ということでもある。責任をもつ。自分で判断する。それは、実際はなかなか大変だと思う。「自分の頭で」きちんと考えなければならないからだ。でも、君にはぜひ、そうしてもらいたい。例をあげて話してみよう。「あいつはクライ」という。「あの子はむかつく」という。中学校では、そんな言い方がしょっちゅうだし、小学校にも伝染している。けれども、ちょっと待ってくれ。「クライ」だの「むかつく」だのと、君が「自分一人で」感じたことなのかどうか。「みんなが言うから」それに合わせて言っているのではないのか。だんだん、みんなが言うのをやめ、君が最後の一人になっても、「自分の責任と判断で」、相手に向かって堂々とそう言えるか。そここのところを考えてほしいと思う。いじめの問題もそう。大勢の「いじめっ子」が、弱い一人を寄ってたかっていじめている。または、助けもせず、黙って見ている。これが、いま学校で起こっているいじめだ。みんながいじめるから、いじめる。そこに、自分の考えはない。「大勢」の一人が君だとしたら、見ているのが君ならば、君は自分を正しいと考えるだろうか。むかしは、こういう行動を「ひきょう」といった。自分だけが目立つと、上級生に「なまいき」だといじわるされる。そこで一年のときは、できるだけ地味にする。そのかわり、二年になったら一年にいじわるする。かなり多くの中学校で、そんな話を聞く。だれかがやめなくては、このバカげたくり返しはとまらない。自分の頭で考えられる人間ならば、やめる努力はできる。

以上の話を新一年生の君にしてきた。しかし、君がかりに二年生であっても、三年生でも、同じことをいいたいと思う。二年ならもっと、三年ならさらに、この話を理解でき、実行できるはずだから。